

双葉地域の現状とふたば医療センター附属病院の取組

福島県ふたば医療センター長・附属病院長 谷川 攻一

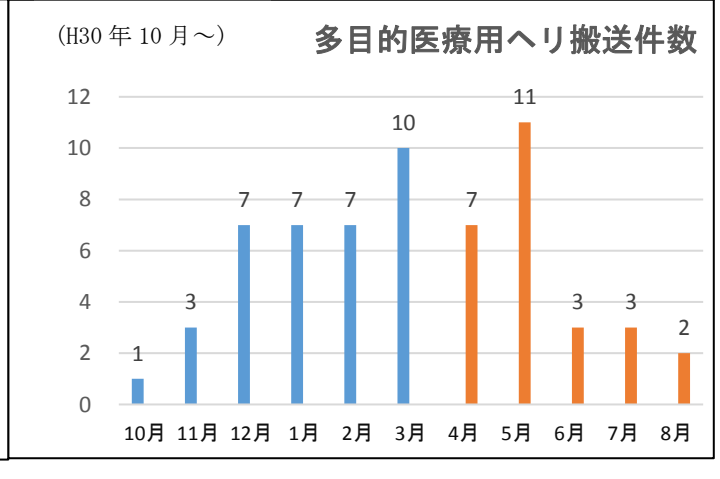
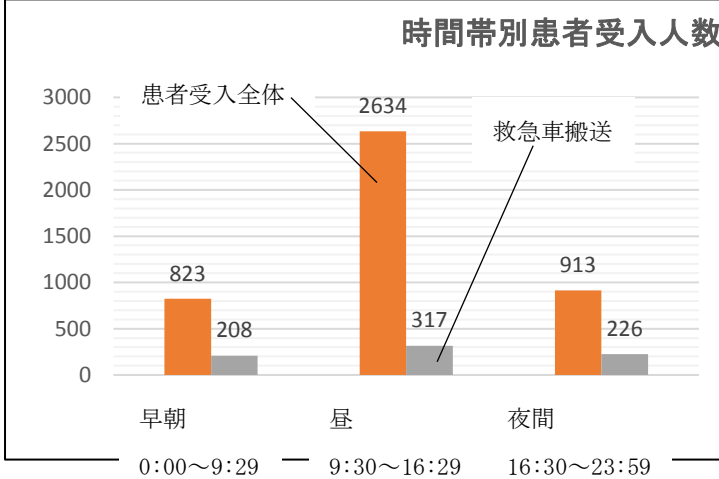
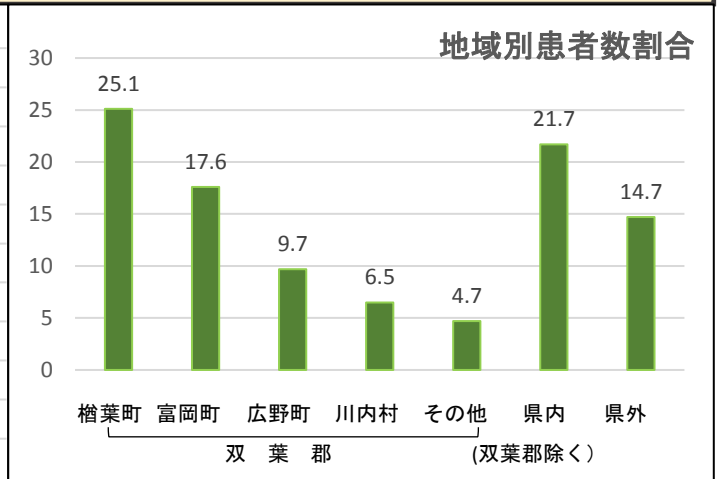
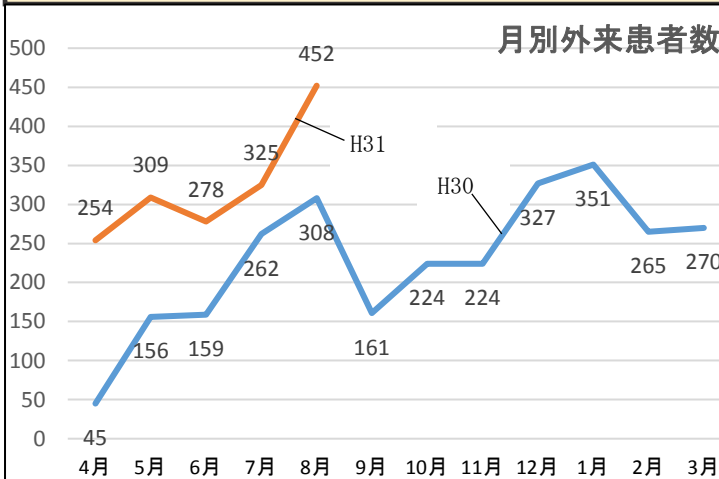
平成三十年四月の開設以来、当院では四千三百七十人の救急患者さん（うち救急搬送は七百五十一人）に対する診療を行って来ました（本年八月末時点）。双葉郡の救急搬送における管内搬送率（全救急搬送件数のうち、双葉郡内の医療機関に救急搬送される割合）は、開設される前年の二十八%に対して、開設後は六十二%へと急増し、東日本大震災前の管内搬送率（六十三%）にほぼ復帰しました。双葉郡内の医療機関に救急搬送される患者の九割以上が当院に搬送されており、地域の救急医療ニーズに応えることができているものと推測されます。この他、当院では廃用症候群対策のための外来リハビリテーションや外来受診が困難な方への訪問診療・訪問看護にも力を入れていきます。この九月からは生活習慣病の代表疾患である糖尿病対策の取り組み（糖尿病チャレンジ入院）を開始しました。また、住民の健康力アップを目指して、出前講座（健康教室）にも取り組んでいきます。

もう一つの特徴は、多目的医療用ヘリです。多目的医療用ヘリは患者さんの搬送のみならず、専門医・医療スタッフの移動や医薬品・資機材の搬送を担うことにより、双葉・相双地域の地理的な不利を克服することを目的として運航されています。

双葉郡では高齢化が急速に進んでおり、様々な病気を抱える住民も帰還しつつあります。一方で、企業の進出も続いています。今後は自治体や関係団体との連携を密にして、疾病予防と早期介入、そして健康増進対策にも寄与できればと考えています。

福島県ふたば医療センター附属病院は、「住民が安心して帰還し生活できる」、「復興事業従事者が安心して働ける」、そして「企業が安心して進出できる」という三つの安心をスローガンとして、双葉郡の医療ニーズにしっかりと応えて行く所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

ふたば医療センター附属病院の状況（平成30年4月～令和元年8月末）



インフルエンザはインフルエンザウイルスに感染することにより起こる病気です。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状があらわれるのが特徴で併せて普通の風邪と同じく、のどの痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。



感染を広げない ～咳エチケット～

- ① 咳やくしゃみが出るときは、周りの人に向けて発しないようにしましょう。
- ② 咳やくしゃみが出るときは、できるだけマスクを着用しましょう。急な咳やくしゃみでマスクがないときは、ティッシュやハンカチ、腕の内側などで口と鼻を覆いましょう。
- ③ 使用後のティッシュは、すぐゴミ箱へ捨てましょう。  
\*手のひら等で咳やくしゃみを受け止めた時は、すぐに手を洗いましょう。

- ① 流行前のワクチン接種  
(\*感染後に発症する可能性の低減と重症化防止)
- ② 外出後の手洗い等の徹底 (感染症予防の基本)
- ③ 適度な湿度 (50%～60%) の保持  
\*空気が乾燥するとインフルエンザにかかりやすくなります。
- ④ 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取
- ⑤ 人混みや繁華街への外出を控える (流行時)  
\*外出するときはマスクを着用しましょう。



かかったかなと思ったら？

- ① 人混みや繁華街への外出は控えましょう。
- ② 咳やくしゃみ等の症状があるときは、感染を広げないよう咳エチケットを徹底しましょう。
- ③ 安静にして、十分な睡眠、休養をとりましょう。
- ④ 水分を十分に補給しましょう。
- ⑤ 高熱が出る、息が苦しい等の具合が悪いときは、早めに医療機関を受診しましょう。

～出典：H30. 11 月 厚生労働省

「インフルエンザ総合対策の推進について」より～

～ふたば医療センター附属病院の活動紹介～  
(地域の中で訪問看護、出前講座等を行っています)

職員集合



出前講座の開催



消防隊との事例検討



訪問看護



[広報紙に関する問い合わせ先] 公立大学法人福島県立医科大学復興推進課  
電話番号 (024) 547-1686 伊藤・山川